

令和5年度 県南地域づくりキャンパス事業

大正大学：阿南市「富岡商店街」の現状調査と「阿南人」の取材・動画配信

【事業の内容】

大正大学地域創生学部の地域実習とは

2023年の地域実習Ⅱは10月2日～11月3日の期間で「南三陸町、東京都、南魚沼市、藤枝市、御坊市、淡路市、阿南市、今治市、益田市、延岡市」の10地域で実施されました。「交流や対話を通じて地域に対する理解を深め、個人の関心テーマを明確にして就職やキャリアについて考えるきっかけになること」を目的としており、学生たちは基本的に2つの異なった地域で活動します。

阿南市では、2年生の前半10名、後半9名がそれぞれ2週間にわたって市内視察・農業やSUP体験・マルシェ出店など様々な体験を実施。また、地域実習Ⅲでも4名の3年生が阿南でそれぞれ個人テーマの調査活動を行いました。県南地域づくりキャンパス事業としては、2年生が阿南支局のある富岡商店街を調査し、店舗を取材して紹介動画をSNS等で発信するとともに、それらをまとめた冊子「阿南人 Ver.富岡商店街」を発行して、商店街の魅力を広く紹介することができました。

富岡商店街の取材&動画編集

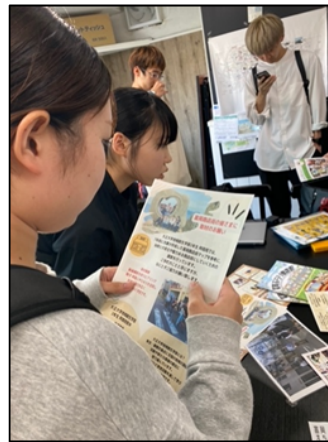
最初にスマホで簡単に動画編集できるアプリの講習を受け、次にメディア編集経験者から取材のコツや注意事項を学びました。それから、思い思いに街へ出て気になる店を探します。商店街協同組合の岡澤理事長にもお話を聞きました。城下町として栄えた富岡商店街は大正時代には200以上の商店が軒を連ね、その後は駅の開通でさらに発展し昭和53年頃は歩行者天国になるほどの人通りでした。郊外に大型商業施設が立地してから空き店舗が増えてかつての賑わいはなくなりましたが、老舗の八百屋、菓子店、呉服店、最近ではカフェを誘致するなど若者や子育て世代が立ち寄れる個性的な商店街を目指しています。



学生たちは取材をお願いするチラシを作成してアポ取りを開始。「動画はちょっと・・・」と、断られる場合もありましたが、趣旨を説明して了解が得られたところからお店を訪問しました。インタビュー役と撮影係のコンビで取材を進め、支局に帰るとスマホと「にらめっこ」しながら音楽や画面切り替え、文字入れなど講習の成果を発揮して動画編集作業を続けます。



商店街の調査



取材依頼のチラシ作成

制作した 20 の動画から、店主と制作した学生の個性とが絡み合った絶妙の作品をご覧ください。



取材の様子

(樹樹) <https://x.gd/6eGjB>



(酒楽亭) <https://x.gd/rKJAp>



(村田鮮魚店) <https://x.gd/b2VRWF>



SNS での発信と拡散

前後半の実習終了後、東京に帰ってからも動画のブラッシュアップを行い、SNS のリール動画で毎日発信しました。興味を引くサムネイル画像を工夫した効果とも相まって、どの動画も平均 1,000 くらいの再生回数があり、最高は 6,000 を超える動画もありました (2 月末現在)。

(Instagram 阿南人) https://www.instagram.com/ananjin_sudatch/

(Facebook 阿南人) <https://www.facebook.com/sudatch.anan>

冊子「阿南人」の作成

SNS 発信と並行して制作したのが冊子「阿南人 Ver.富岡商店街」で、「商店街の歴史と今」「動画の店がわかる MAP」「店舗の基本情報と動画 QR コード」「学生の編集後記」から構成されています。2月に学生4名が阿南のイベントに参加する機会があり、完成した冊子を店主の方々に直接お届けしました。また、市役所や図書館など関係機関に配布して、さらに多くの人に商店街の魅力や学生の活動を知っていただくことが出来ました。



完成した冊子



店舗にお届け

まとめ

「インタビューをした商店街の方々をはじめ、さまざまな阿南の温かい人に触れ、充実した時間を過ごすことができました。実際に動画を制作して SNS で発信するという貴重な体験をさせていただきありがとうございました。」「アポ取りからインタビューを行い、動画を作るという内容は非常に濃いもので、普段の生活ではできない体験を阿南でたくさん行うことができ、すごく貴重なものとなりました。2週間では足りなかったものを探しにまた阿南に行きたいです。」

以上、2人の編集後記を抜粋しましたが、今回の一連の活動は学生にとってやりがいのある有意義な体験となったようです。アルゴリズムとも呼ばれる SNS の拡散力がなせる技なのかもしれませんが、学生が作った動画がこれだけ多くの人々の目に止まったということは感動で、「商店街の魅力再発見」につながったと取材先の店主の皆さんや商店街組合からも称賛の声をいただきました。支局が運営する Instagram 阿南人もフォロワーを大きく増やすことができ、冊子と相まって、今後さらに本学の取組を多くの人に知ってもらえそうです。以上、事業内容の報告といたします。



成果発表会の様子